

2021年3月期 第3四半期決算説明資料



GENDAI AGENCY Inc.

ゲンダイエージェンシー株式会社

2021年1月22日



P3 第3四半期 損益計算書(連結)

P4 事業の種類別セグメント

【広告事業】

P5 第3四半期 損益計算書

P6 品目別売上高の推移

P7 従業員の状況

【不動産事業】

P8 第3四半期 損益計算書

P9 第3四半期 連結貸借対照表

P10 通期予想進捗状況

第3四半期 損益計算書(連結)

(単位：百万円)

	当第3四半期累計期間	構成比	前第3四半期累計期間	構成比	前年同期比
売上高	5,419	100.0%	8,725	100.0%	62.1%
営業利益 (△は損失)	▲250	—	453	5.2%	—
経常利益 (△は損失)	▲236	—	427	4.9%	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (△は損失)	▲263	—	132	1.5%	—

<四半期連結会計期間別：内訳>

(単位：百万円)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	累計
売上高	1,046	2,085	2,288	5,419
営業利益 (△は損失)	▲346	2	94	▲250
経常利益 (△は損失)	▲346	2	108	▲236
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (△は損失)	▲355	▲7	98	▲263

□ パチンコホール業界においては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2020年4月7日(当初7都府県、4月16日には全国に拡大)に発令された、政府の緊急事態宣言に基づく各都道府県からの休業要請を受け、大多数のパチンコホールが休業する異例の事態となり、5月中旬から下旬にかけて、段階的に宣言が解除されるまでの期間継続し、パチンコホール経営企業に多大な影響を与えることとなりました。

□ さらに、2020年3月より全国のパチンコホールにおいて、集客を目的とした広告宣伝が自粛され、広告需要は著しく減少しました。6月に入ると、広告宣伝が段階的に再開され、7月に入ると、店舗施設における集客活動の正常化に向けた動き出しもあり、広告需要は回復基調に転じました。しかしながら12月に入ると感染者の急増を原因として、施設来店者の伸び悩みが見られたことから、需要の回復には遅れがみられます。

□ こうした環境下で、当社グループでは主力の広告事業において、コロナ禍において安全で安心の店舗施設利用を打ち出した各種広告企画の立案と提案活動をすすめてまいりました。また、パチンコホール広告以外の分野における新規顧客開拓活動に重点的に取り組んでまいりました。

□ その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,419百万円(前年同期比37.9%減)、営業損失は250百万円(前年同期は453百万円の利益)、経常損失は236百万円(前年同期は427百万円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は263百万円(前年同期は132百万円の利益)となりました。

■当第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	5,369	44	5	—	5,419
セグメント利益 (△は損失)	▲15	13	▲7	▲240	▲250

■前年同期比

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	▲3,216	▲44	▲45	—	▲3,306
セグメント利益	▲787	▲34	116	2	▲703

□ 7月以降、各セグメントにおける需要は回復傾向にあるものの、6月以前の新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きく、第3四半期累計期間において、各セグメントとも売上高は大幅に減少しました。その結果、連結ベースの売上高は、前年同期比で3,306百万円の減少となりました。

□ その他の前年同期比の大幅な変動は、主として前連結会計年度末において、東南アジアにおけるカジノ運営受託事業を営んでいた子会社GDLH Pte Ltd.の株式譲渡により、連結の範囲から除外したことによるものです。

第3四半期 損益計算書(広告事業)

(単位：百万円)

広告事業	当第3四半期累計期間	前第3四半期累計期間	前年同期比
売上高	5,369	8,585	62.5%
営業費用	5,384	7,813	68.9%
セグメント利益(△は損失)	▲15	772	—

<四半期連結会計期間別：内訳>

(単位：百万円)

広告事業	第1四半期	第2四半期	第3四半期	累計
売上高	1,036	2,065	2,267	5,369
営業費用	1,282	1,993	2,108	5,384
セグメント利益(△は損失)	▲246	72	159	▲15

外部環境>

- 政府の緊急事態宣言に基づく各都道府県からの休業要請を受け、大多数のパチンコホールが5月中旬から下旬まで休業。さらに、全国的な集客のための広告宣伝自粛により、広告需要は激減。
- フィットネス施設広告分野においても、フィットネス施設の相次ぐ休業等により、広告需要は低調に推移。
- 6月に入り、段階的に広告活動は再開、広告需要は回復基調に転じたものの、需要の戻りは概ね正常時の80%程度にとどまる。

当社の取り組み>

- テレワークの環境下でも、必要なサービスが安定的に提供できる体制を整備。
- クライアントの情報収集と広告活動再開を見据えた、動画広告サービス等の、新サービスの企画立案、提案活動。
- 主に首都圏以外における、パチンコホール以外の新規顧客開拓を推進。
- 営業拠点の集約等を行い、新しい働き方への対応と、間接コスト削減を実施。

結果>

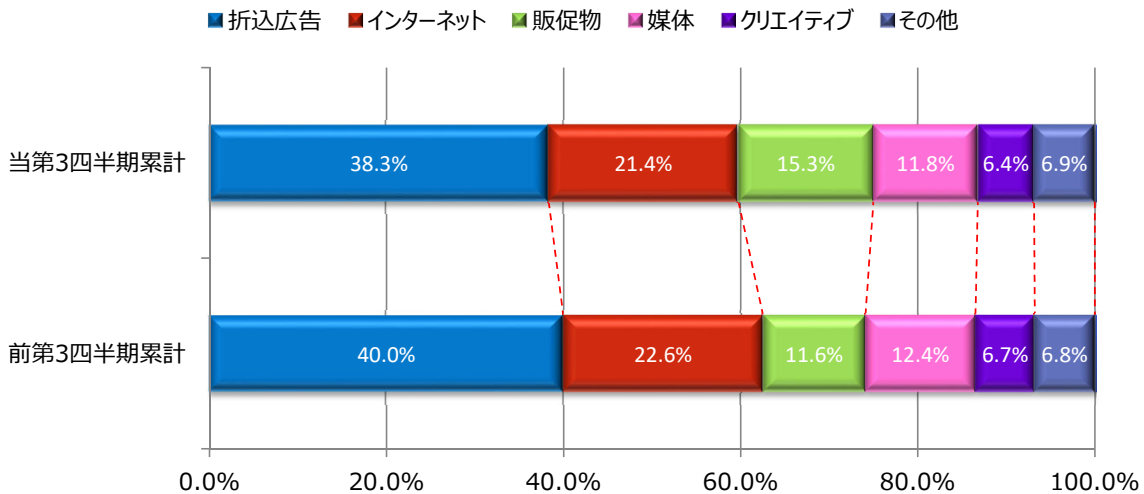
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、広告分野の需要減退が大きく影響したことから、売上高は5,369百万円(前年同期比37.5%減)、セグメント損失は15百万円(前年同期は772百万円の利益)となりました。

品目別売上高の推移(広告事業)

(単位：百万円)

	当第3四半期累計期間	構成比	前年同期	構成比	前年同期比
折込広告	2,056	38.3%	3,430	40.0%	59.9%
インターネット	1,151	21.4%	1,937	22.6%	59.4%
販促物	819	15.3%	993	11.6%	82.5%
媒体	633	11.8%	1,067	12.4%	59.3%
クリエイティブ	341	6.4%	575	6.7%	59.3%
その他	368	6.9%	582	6.8%	63.3%
	5,369	100.0%	8,585	100.0%	62.5%

<品目別構成比>

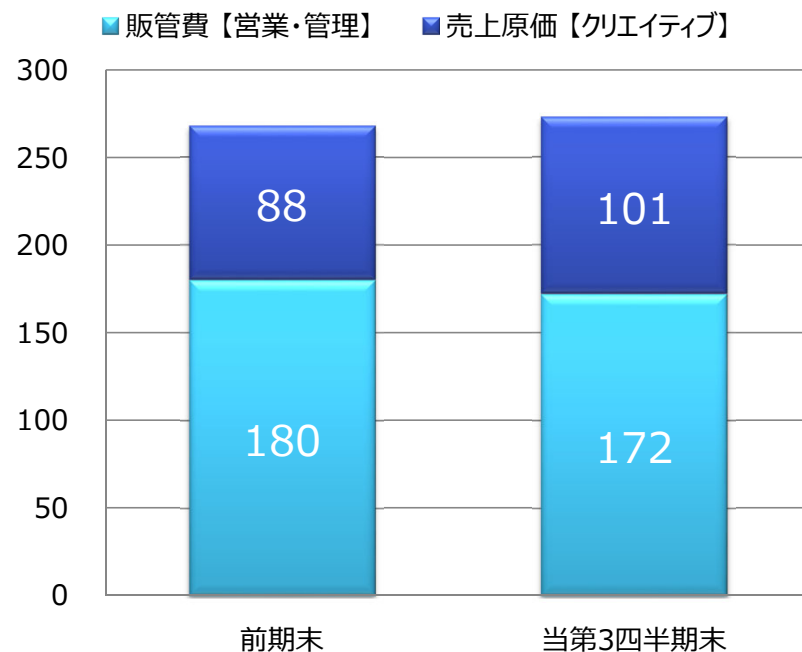


□ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により各品目とも前年を大幅に下回りました。構成比に関しては、7月以降の広告需要回復に伴い、第3四半期累計期間においては、正常需要下の構成比に近づきつつあります。

従業員の状況(広告事業)

(単位：人)

	前期末	当第3四半期末
販管費【営業・管理】	180	172
売上原価【クリエイティブ】	88	101
広告事業計	268	273



- 営業・管理 : 営業拠点の集約や業務効率向上のための各種施策を実施。
- クリエイティブ: 内製化推進による外注コスト削減を目的として、14名新規採用。
- 結果、前期末と比較して5名の増員となりました。

第3四半期 損益計算書(不動産事業)

(単位：百万円)

不動産事業	当第3四半期累計期間	前第3四半期累計期間	前年同期比
売上高	44	88	50.2%
営業費用	31	41	75.6%
セグメント利益	13	47	27.6%

<四半期連結会計期間別：内訳>

(単位：百万円)

不動産事業	第1四半期	第2四半期	第3四半期	累計
売上高	9	16	18	44
営業費用	11	9	11	31
セグメント利益	▲2	7	7	13

□ 連結子会社(株)ランドサポートにおいて所有する千葉県柏市の土地の賃貸案件収益に加え、賃貸仲介物件の引き渡しに伴う収益10百万円の計上がありました。

□ その結果、売上高は44百万円(前年同期比49.8%減)、セグメント利益は13百万円(同72.4%減)となりました。

第3四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (A)	当第3四半期末 (B)	差額 (B) - (A)
現金及び預金	4,052	3,818	▲233
受取手形・売掛金	980	1,216	236
その他流動資産	236	280	43
有形固定資産	630	602	▲28
無形固定資産	76	66	▲9
投資その他資産	821	481	▲339
資産合計	6,797	6,466	▲331
買掛金	489	603	114
短期借入金（一年内返済予定の長期借入金を含む）	200	275	75
未払法人税等	39	16	▲22
その他流動負債	202	132	▲69
長期借入金	600	637	37
その他固定負債	35	35	-
負債合計	1,565	1,700	134
株主資本	5,228	4,768	▲460
その他	▲4	▲2	1
非支配株主持分	7	-	▲7
純資産合計	5,231	4,765	▲465
負債・純資産合計	6,797	6,466	▲331

□ 手元流動性の確保を目的として、当第1四半期連結会計期間中において実行した短期借入金1,400百万については、当第3四半期連結会計期間末までに一旦全額返済。

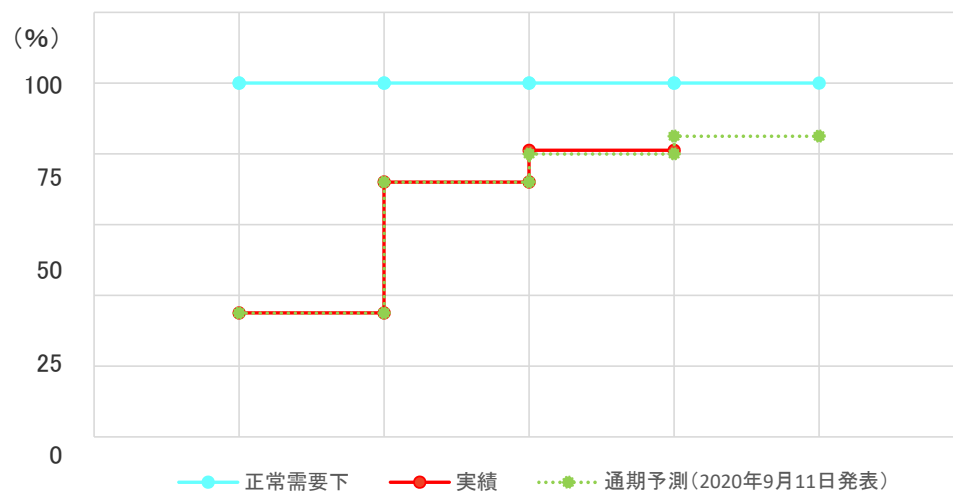
□ 純資産は四半期純損失263百万円を計上したことに加え、前期決算に係る利益配当195百万円を実施したこと等により、465百万円の減少。

通期予想進捗状況

(単位：百万円)

	2021年3月期 第3四半期実績	2021年3月期 通期予想 ※2020年9月11日発表	進捗率
売上高	5,419	7,500	72.3%
営業利益 (△は損失)	△ 250	△ 230	-
経常利益 (△は損失)	△ 236	△ 240	-
親会社株主に帰属する当期純利益 (△は損失)	△ 263	△ 260	-

通期予想：売上高進捗状況



□ 当第3四半期連結累計期間までにおける業績は、計画を若干上回って推移しております。しかしながら、この冬場における新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う外出自粛や、2021年1月7日に政府による「緊急事態宣言」が発令されたことに伴う、対象地域の施設における店外広告自粛の影響等により、第4四半期の広告需要は再び不安定な状況が続くものと見込まれます。そのため、現時点では前回発表の連結業績予想を修正しておりません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・IR窓口 管理部 Tel.03-5358-3334